

大俣小だより

11月号

「気づき・考え・行動し、話し・伝える」児童の育成



体験からの学びを大切に

暖かい日が続きますが、季節は秋、11月となりました。本校では、9月から11月にかけて、校外で様々な体験活動や学習を実施することができました。

3年生は、10月の蛭子祭りに「魚釣り」「射的」「ピンボール」の店を出しました。事前に校内で実施し、経験者でもある4年生からアドバイスを受け、よりよいものを作ろうと自ら改善していました。4年生は岩滝用水見学やEMだんごによる仲間池の水質浄化、5年生は防災学習に取り組みました。6年生は修学旅行で、日本の歴史や文化、集団行動や仲間の大切さを学んでくれたことと思います。

他にも、市・県の陸上運動記録会、県科学経験発表会に参加したり、巡回作品展に向けて習字や絵画に取り組んだり、子どもたち一人ひとりが充実した教育活動に取り組むことができ、たいへん嬉しく思います。

11月には、1年生が「あきのおもちゃひろば」にこども園の5歳児を、2年生が「おもちゃフェスタ」に1年生を招待します。どちらの学年も、招待する子どもたちを楽しませようと、昨年度の自分たちの体験を生かし、試行錯誤を繰り返しています。

様々な取組の中で、成功体験だけでなく失敗を体験することもあります。それを乗り越える力も身に付けてほしいと思います。そして、体験からの学びを、日々の生活に生かしていけるよう、積み重ねを大切にしていきたいです。



あったか言葉の花を咲かそう



温かい気持ちになった言葉や行動を花型の用紙に書いて、相手に届けようという活動をいじめ防止委員会の子どもたちが提案してくれました。

今、児童玄関にはあったか言葉の花がたくさん掲示されています。

温かい言動ができた子も、それを見つけて届けた子も、温かい心の持ち主であることを子どもたちにも伝えていきます。今後も、あったか言葉の花が増えることを期待しています。

読書週間(10月27日～11月9日)

終戦の2年後の1947年(昭和22年)、まだ戦火の傷痕が至るところに残っているとき、「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」と決意をひとつに、出版社、取次会社、書店と公共図書館が力を合わせ、さらに新聞・放送のマスコミ機関の協力のもとに、第1回「読書週間」が開催されました。

第1回の「読書週間」は11月17日から23日。これは11月16日から1週間にわたって開かれるアメリカの「チルドレンズ・ブック・ウィーク」にならったものです。各地で講演会・図書に関する展示会が開かれ、その反響は大きなものでした。「一週間では惜しい」との声を受け、現在の10月27日から11月9日(文化の日をはさんで2週間)となったのは、第2回からです。

それから約80年、「読書週間」は国民的行事として定着し、日本は世界有数の「本を読む国民」の国となりました。その一方、物質生活の豊かさに比べ精神生活の低迷が問題視されている昨今、論理的思考の基礎となる読書の重要性は、ますます高まっています。

本年の「読書週間」が、みなさん一人ひとりの読書への関心と、読書習慣の確立の契機となることを願ってやみません。

<http://www.dokusyo.or.jp/suishin/suishin.htm#> より